

## 事業部（文化事業）総括

### 文化事業 / 総括

平成21年度主催事業として、クラシック8本、音楽4本、映画18本、演劇・古典芸能13本、美術3本、アウトリーチ6本、その他5本、合計57本の事業を実施した。

本年は、事業方針の中での大きな柱の「参加型・育成型・普及型事業へのシフト」を念頭に従来のアウトリーチ等の事業に加え、鑑賞型事業においてもワークショップを実施し普及的な側面を持たせるなどの工夫を行なった。

入場者数は、38,295人となり、前年比87.2%、約5,622人の減となった。

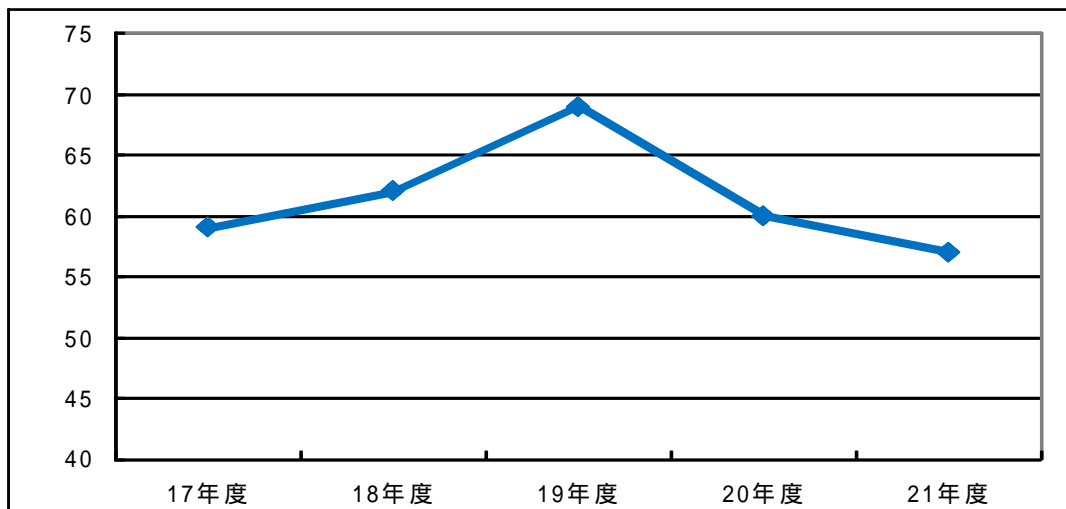
事業収支は、アウトリーチの増加やワークショップ実施などの参加育成型事業への取り組み強化やチケット価格の高い鑑賞型事業のチケット販売の伸び悩み等により、平成19年度と比較すると、約7,300千円の悪化となった。

#### [ 事業本数・ジャンル別 ]

(単位：本)

事業ジャンル	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
音楽(クラシック)	7	9	7	7	8
音楽(クラシック以外)	10	6	9	8	4
映画	16	20	20	15	18
演劇・古典芸能	11	9	9	9	13
美術	2	1	2	3	3
アウトリーチ		6	5	3	6
その他	13	11	17	15	5
合計	59	62	69	60	57
対前年比	105%	105%	111%	87%	95%

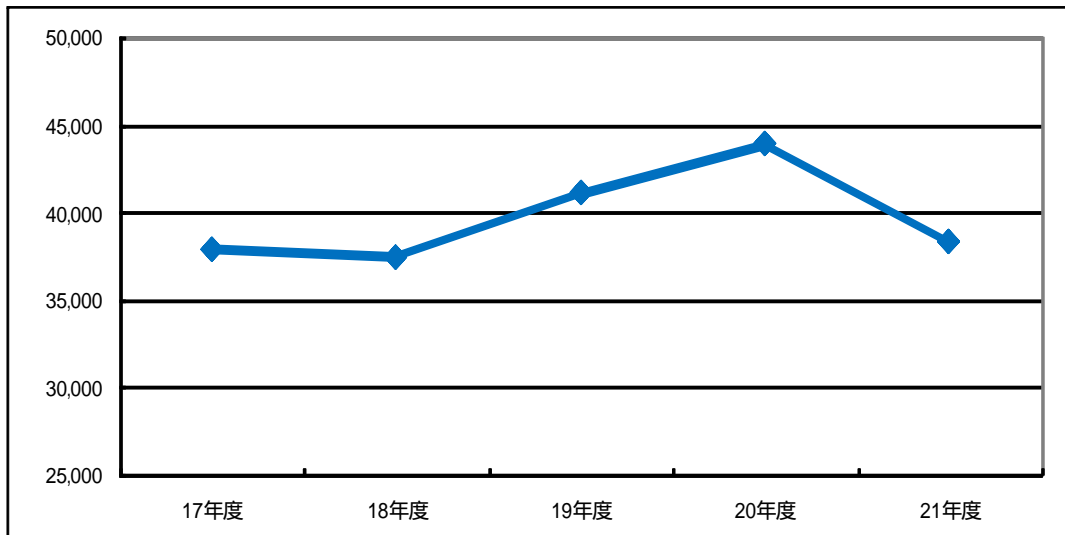
平成18年度からジャンルにアウトリーチを追加。(18年度以前は各ジャンル内に含む)



[ 入場者数 ]

(単位：人)

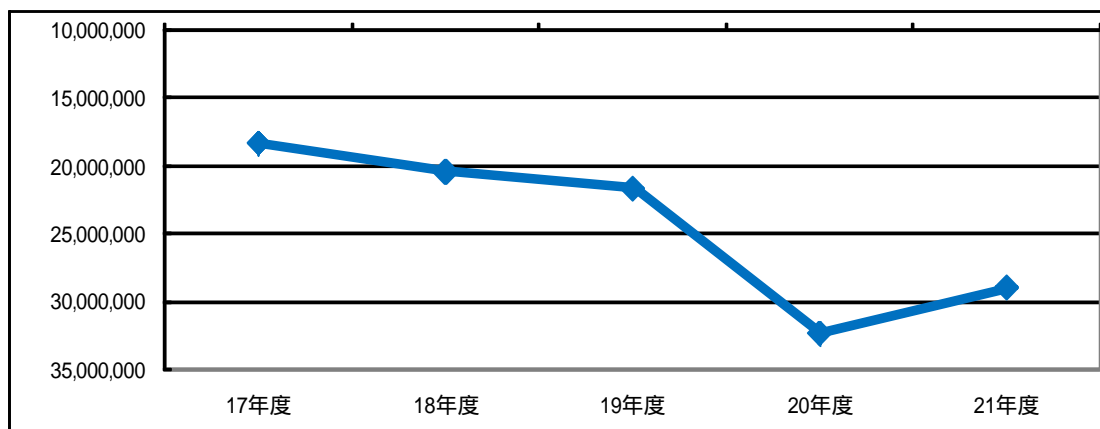
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
入場者数	37,883	37,439	41,070	43,917	38,295
対前年比	111.8%	98.8%	109.7%	106.9%	87.2%
対17年度比		98.8%	108.4%	115.9%	101.1%



[ 収支状況 ]

(単位：円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
収入	48,358,141	54,513,429	58,970,004	64,926,712	52,163,911
支出	66,725,528	74,954,960	80,654,762	97,259,379	81,160,443
収支差額	18,367,387	20,441,531	21,684,758	32,332,667	28,996,532
対前年比	110.3%	89.9%	94.3%	67.1%	89.7%



※収入:文化事業費収入—文化事業共通収入—チケット発送手数料収入

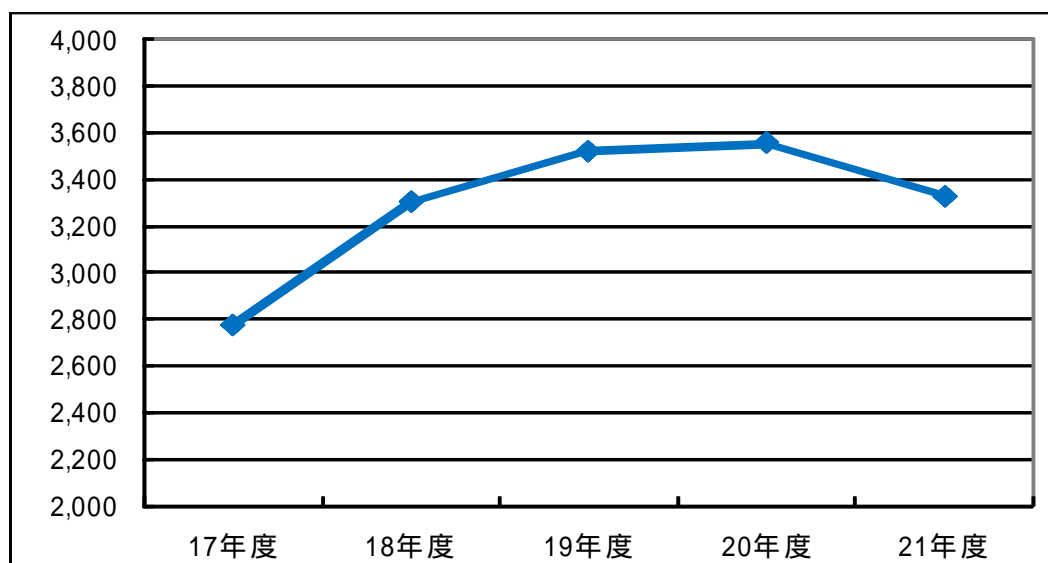
支出:文化事業費支出—給与手当支出—貸金支出(当日アルバイト除く)—文化事業共通支出

[ ユリックス倶楽部（友の会）事業 ]

平成21年のユリックス倶楽部会員数は、3,326人となり前年と比較すると227人の減となった。  
 要因は、大型共催事業が実施できなかったことと、鑑賞型事業本数が減少したことがあげられる。

(単位：人)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
会員数	2,772	3,300	3,521	3,553	3,327
対前年比	109.5%	119.0%	106.7%	100.9%	93.6%
対前年人数	241	528	221	32	227



[ ユリックス倶楽部入会特典について ]

ユリックス倶楽部特典 年会費 継続 1,500円 新規 2,000円

一般発売よりも7日早くチケット購入。

託児サービスが無料。(通常1,000円)

ユリックス主催のチケット割引。2,500円(500円×5枚)分

倶楽部会員招待事業の無料チケット進呈。(通常料金2,500円相当)

毎月、情報誌「ユリックス・サラダ」をお届け。(宗像・福津・宮若市以外)

アクアドーム、パットゴルフ、プラネタリウム、ゆーゆープールが割引料金で利用可。

貸出対象地区以外の方にも図書の出借。

宗像文化サークルの入金500円引き。

## 主催事業・ジャンル別

### (1) クラシック事業

「仲道郁代 ~鍵盤のミステリー~」、「天満敦子ヴァイオリンコンサート」、「音楽の絵本 第4巻」、「岡本知高 Concerto del Sopranista2010」など8本の事業を実施した。

特筆すべきは、1月19日に実施した「フィルハーモニアカルテット・ベルリン」である。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者たちによる弦楽四重奏がハーモニーホール of 聴衆を存分に魅了した。音楽関係者も唸るほどの名演奏であり、ベルリンフィルで第1コンサートマスターを務めるダニエル・シュターブラバがハーモニーホールの響きを非常に気に入って、再演の希望を伝え、会場を後にした。

また、3月13日に実施した「岡本知高 Concerto del Sopranista2010」では、2008年の公共ホール音楽活性化支援事業でフルート奏者の荒川洋さんが作詞・作曲した「ユリの花をあなたに」を地元合唱団と共演した。



音楽の絵本 春の音楽会



岡本知高と地元合唱団の共演



フィルハーモニアカルテット・ベルリン



ピアノ庫にサインをする  
クリスティアン・シュターデルマン

## (2) 音楽事業(クラシック以外)

音楽事業は、「木住野佳子&白鳥恵美子」、「ザ・ドリームバンドコンサート」、「九管ポップス」、ニューイヤーコンサートとして「寺井尚子ヴァイオリンコンサート」の4本を実施した。

「寺井尚子ヴァイオリンコンサート」は、入場者 541 人とほぼ満席であった。公共ホールでは珍しい JAZZ コンサートであり、2008 年に閉鎖となった「ビルボードライブ」の影響もあってか、お客様から「福岡で寺井が聞けてうれしかった」という意見を複数頂いた。



寺井尚子ジャズヴァイオリンコンサート

- ・ニューイヤーコンサートの定例化
- ・JAZZも定期的の実施
- ・情報収集の実施



また、本年度の反省としてイベントホールで実施する大型共催事業が出来なかったことが挙げられ、結果として、ユリックス倶楽部会員の獲得と入場者数への影響が大きかった。

20 年度音楽事業	21 年度音楽事業
「アルフィー」	「木住野佳子 & 白鳥恵美子」
「北村英治 with 宗像シンフォニックウインズ」	「ドリームバンドコンサート」
「ヘレンメリルジャズコンサート」	「九管ポップス」
「BS おかあさんといっしょ」	「寺井尚子ヴァイオリンコンサート」
「九管ポップス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽事業入場者数 20 年度 8,620 人</li> <li>21 年度 2,075 人</li> <li>・ユリックス倶楽部会員獲得へ影響</li> </ul>
「小曽根真 No Name Horses」	
「さだまさし」	

### (3)九州管楽合奏団

- 定期演奏会 5月に実施した『九州管楽合奏団定期演奏会』は、357人の入場者数となり、前年の461人を大きく下回った。要因は北九州地区の吹奏楽イベントと公演日が重なったことが考えられる。12月実施の『九管ポップスコンサート』は、「LET'S SWING Christmas」と題しリズムカルで迫力ある演奏をお届けした。指揮は米米CLUBのオリタ・ノボッタ氏。
- 学校公演 4校実施を目標としたが、岡垣内浦小(10月13日)・南郷小(11月14日)の2校で実施となった。プロの演奏にじっと聴き入った様子や、演奏にあわせた元気な歌声が印象的、感動的であり、次年度は4校実施を目標とする。
- クリニック 楽団員が各パートに別れ、地元中学校、高等学校の吹奏楽部の学生に直接指導を行なった。(4月、10月、3月の3回実施)  
参加者数は317人となり、昨年183人から大幅に増加した。次年度は、九州管楽合奏団の音楽監督オリタ・ノボッタ氏によるクリニックを実施する予定である。



九管ポップス オリタ・ノボッタ氏のソロ



九管クリニック トランペットパート



南郷小学校学校公演



赤間西コミセン パーカッション編成

## (4) 財団法人地域創造 公共ホール音楽活性化支援事業

この事業は、(財)地域創造からの助成を受け、地域においてクラシック音楽を身近にするため、(財)地域創造の登録アーティストを公共ホールに派遣し、コンサートとアクティビティ(地域と交流を図るプログラム)を実施するものである。本年度のアクティビティは、宗寿園・東郷コミセン・吉武小学校・八所宮の4ヶ所で実施し、入場者は208人であった。出演者はソプラノ歌手の大森智子さんとピアニストの白石光隆さん。コンサートでは、宗像市少年少女合唱団と共演し、前年の事業でフルート奏者の荒川洋さんに作詞・作曲していただいた「ユリの花をあなたに」を合唱した。

(財)地域創造より助成を受け、平成19年度よりスタートした事業は本年度が最終年度となった。今後は3年をかけて蓄積したノウハウをベースとして宗像ユリックス独自のアウトリーチ事業を作り上げていく。



以下4ヶ所でアウトリーチ  
208人のお客様

11/26	宗寿園
11/26	東郷コミセン
11/27	吉武小学校
11/27	八所宮

吉武小学校では、演奏会だけでなく、ピアノの解体による構造説明や、給食を一緒にとるなどアーティストと小学生の交流が図れた。



### アウトリーチのメリット

- ・芸術普及活動
- ・地域の利便性の平準化
- ・学校教育との連携
- ・行政の理解や聴衆の拡大
- ・芸術家との密接なつながり

## (5) 映画事業

映画事業は、名画シアター14本、ファミリーシアター2本、主催事業の併催イベントとして2本、合計18本実施した。入場者数1,227人で最高を記録した作品は「沈まぬ太陽」で、日本アカデミー賞最優秀作品賞などを受賞するなど話題性十分で、タイムリーな上映となった。

また、3月28日に市川崑監督作品「その木戸を通して」を上映した。料金は一律800円とし、ユリックス倶楽部のクーポン消化（倶楽部会員へのサービスの一環）を目的とした。

入場者数748人、クーポン利用枚数388枚と好評であった。

	事業本数	入場者数	1本当り入場者数
平成17年度	19本	8,753人	460人
平成18年度	20本	12,793人	640人
平成19年度	20本	9,943人	497人
平成20年度	15本	9,085人	606人
平成21年度	16本	9,249人	578人
前年差異	+1本	+164人	28人

主催事業の併催イベントとして上映した「空海」、「ベルリンフィル最高のハーモニーを求めて」は、上記より除外

### 映画事業入場者ベスト3

1位	『沈まぬ太陽』（3月21日）	1,227人
2位	『劔岳・点の記』（9月29日）	1,008人
3位	『マダガスカル2』（8月16日）	793人

併催イベントとして、上映の合間を利用して、ホワイエにて『ロビーライブ』を13回実施した。

### [ ロビーライブ写真 ]





## (6) 演劇・ミュージカル事業

財団法人地域創造の助成事業 劇団わらび座ミュージカル「龍馬!」、劇団飛行船「オズの魔法使い」、「宗像・宮若演劇交流事業」など7本の事業を実施した。劇団わらび座ミュージカル脚本家のジェームス三木さんの講演会を実施した結果、790人の入場者数となった。(前回のわらび座の公演は、平成19年度の「棟方志功」で入場者数441人)

「宗像・宮若演劇交流事業」は、宗像市・宮若市の少年少女劇団が相互の交流を目的として、それぞれの作品の発表と2団体合同で作り上げた作品の発表を行なった。

また、「TAOLIVE2009」は、イベントホールで実施し好調な集客(1,322人)であり、収支状況でも、大きく貢献した事業であった。

## (7) 古典芸能

「ゆりっくす日曜百円寄席」、新作能「空海」、「年忘れ大爆笑!全国アマ落語名人会」、「筑前むなかた寄席 桂ざこば」など6本の事業を実施した。

ゆりっくす日曜百円寄席

百円寄席月別入場者数

(単位:人)

月度	2007年	2008年	2009年
4月	73	144	128
5月	122	163	112
6月	87	132	127
7月	151	157	106
8月	95	150	99
9月	145	130	151
10月	136	130	105
11月	124	122	116
12月	114	125	
1月	173	161	161
2月	167	134	170
3月	140	136	171
合計	1,527	1,684	1,446

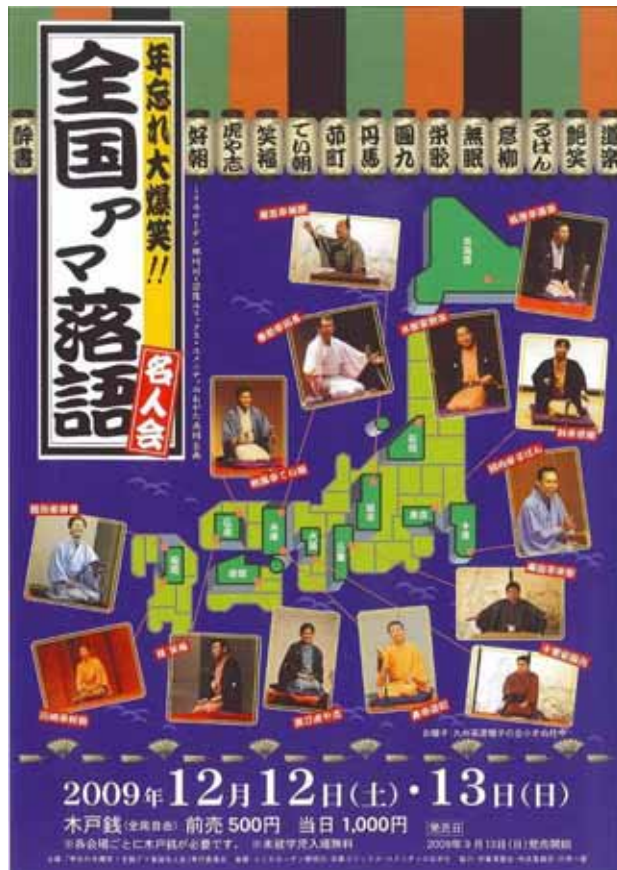
2007年にスタートし、年間約1,500人を集める人気事業である。宗像落語会の協力を得て実施している。現在まで同じネタを行なわないなどこだわりの内容である。

今年度は、12月に「全国アマ落語名人会」を実施したため、12月は開催しなかった。

## 年忘れ大爆笑！！全国アマ落語名人会

北は北海道から南は福岡県まで全国で活躍する、選りすぐりの14人のアマチュア落語家が集結。ミリカローデン那珂川、直方谷尾美術館、宗像ユリックスの3会場で2日間にわたり実施した。宗像ユリックスでは、ハーモニーホールで実施し、503名の入場者。アマチュア落語らしからぬ熱演に聴衆は一様に驚きの声をあげる程であり、再企画の要望も多数。

チラシ表面



南遊亭栄歌（三重）



## 新作能「空海」

「能・狂言に親しもう」というタイトルで、平成18年度より毎年1回、能・狂言の公演を行ってきたが、鑑賞者数が確保できず、事業継続が困難な状況にあった。能・狂言は日本独自の舞台芸術であり、所作の奥深さや音楽の精妙さなどの魅力があり、公共ホールとして事業継続の必要性から実施した。

本年度は、地元観光資源である「鎮国寺」が空海ゆかりの寺であること、また、現代を代表する能楽師・シテ方観世流梅若玄祥（第56代梅若六郎改め）による新作能「空海」を演目とすることで、新たな鑑賞者層の拡大を本事業の目的とした。

演目が「空海」ということもあり、僧侶が声明を唱える場面があり、真言宗青教連 法親会の方々（17名）に出演していただいた。

また、公演前に能教室を4回（147名）、鎮国寺での声明披露（100名）、観世音寺へのアウトリーチ（200名）をはじめ、TVQ九州放送での名義主催などの事業告知を積極的に行った。



空海登場シーン



空海と孔雀明王



終盤の声明シーン



梅若玄祥氏と真言宗青教連法親会の皆様

## (8) 美術事業

「郷土の美術家展 賀久好裕展」、「県展宗像ブロック展」、「大きなクスの木の下で 美術館展」の3事業を実施した。「大きなクスの木の下で 美術館展」は昨年につき2回目の開催となり、今年度は中村琢二作品に絞って展示を行なった。入場者数 1,542 人と伸び悩んだが、昨年に引き続きボランティア主導のワークショップなど工夫が随所にうかがわれる展示会となった。



ワークショップ(粘土づくり)



ワークショップ(模写)

## (9) その他

### 『小学生将棋フェスティバル』

夏休み子ども参加事業として、今年で7回目の開催。市内を中心に121名(前年89名)の参加者で、低学年・高学年の2パートで熱戦を繰り広げた。成績上位者には前年同様、全国大会の福岡県代表資格を与える「県予選」という位置づけを頂き、事業の活性化に寄与した。

### 『ピアノでつなぐ音楽会』 ~ベーゼンドルファーを弾こう~

本年度で3回目となるピアノリレーマラソン。80名の方に参加をいただいた。併催イベントとしてNHKテレビでもおなじみの国府弘子さんによるレクチャーコンサートを前日に実施した。翌日の音楽会の子ども参加者を舞台上に招いてレクチャーするなど、ほのぼのとしたものとなった。



国府弘子レクチャ コンサート



ピアノでつなぐ音楽会

### 『チルドレンズミュージアム』

本年度で3回目の開催となる。子どもたちが五感を通じたものづくりの楽しさや、科学や自然現象の不思議さを体験し、発見することを目的に遊びと学びの場として、イベントホールにて8月8日、9日の2日間開催。昨年同様親子での滞留時間が長く、1,907人(前年1,538人)のお客様に楽しんでいただいた。

また、実施にあたって消防・警察・トヨタ自動車九州・テムザック・福岡教育大学・宗像高校などの多くの団体にご協力をいただいた。

## 後援事業

地域における文化の振興と文化団体の育成を目指し、後援事業を積極的に行っている。

音楽・・・1本　その他・・・1本

## PR事業

### ユリックス・サラダ

情報誌『ユリックス・サラダ』の発行部数は、70,500部（宗像市広報 33,000部 福津市広報 21,000部 宮若市 12,400部 その他 4,100部）。

宗像地区への全戸配布のほか、宗像地区以外のユリックス倶楽部会員、マスコミ各社、JR九州鹿児島本線沿線駅、近隣文化施設などに送付した。『ユリックス・サラダ』は当館の情報発信の要であり、内容の精査と配布箇所の見直しを継続的に実施する。

### マスメディアの活用

主催事業の中で事業効率を上げるために必要と思われるイベントについては、TV局に名義共催を依頼し、スポットCMを流すなど販売促進につなげるようにした。

また、新聞広告、情報専門誌などに各公演の発売前に「プレス資料」を作成し、掲載を依頼するなど、活字媒体を有効に利用し、積極的に情報発信を行った。

### ポスター・チラシなど

ユリックス催し物の内容や開催時期をお知らせするポスター・チラシは、プレイガイドや近隣の文化施設に適宜配布し、主催事業のPRをした。また、チラシの配布については、主催事業はもちろんのこと、ユリックスでの貸館公演の際にパンフレットに折込みを依頼した。さらに、近隣の文化会館で同じジャンルの公演が開催される際も、出向いて主催者に同様な折込み依頼をするなどしており、これらは活動で一定の成果を得た。

### ダイレクトメール

ユリックスの主催事業の際に回収したアンケート情報を、事業ごとにデータ管理し、同じジャンルの公演の発売前にダイレクトメールで顧客に郵送し、販売促進に努めた。

### ホームページ

ユリックス情報をホームページに掲載し、適宜更新した。各施設の案内から利用料金、主催事業や貸館でのイベント情報、当館までの交通アクセスなど、さまざまな情報が満載されている。また、お客様からの声を聞く場所として『みなさんの掲示板』を設けており、そこには時折、苦情が寄せられることもあるが、お客様とのコミュニケーションの場となっている。